尾瀬ケ原　東電小屋

Ozegahara Touden Goya
（新潟県魚沼市）

生まれて初めて尾瀬ケ原へやってきた。尾瀬と言えば、箱根、富士五湖、伊豆、鎌倉、草津、軽井沢などと並び、関東地方屈指の行楽地だ。水芭蕉の歌であまりに有名である。しかし、そこへのアプローチはそう簡単ではない。

尾瀬の玄関口は富士見下、大清水、沼山峠、御池などいくつかあるが、日本百名山である至仏山（しぶつさん）登山に一番便利な鳩待峠が一般的である。

鳩待峠は分水嶺である。手前に降った雨水は太平洋へ、向こう側である尾瀬側の雨水は日本海へ注いでいる。

鳩待峠へは戸倉でマイカーを乗り捨て、タクシーかバスでアプローチする。所要時間は約 20～30 分だ。鳩待峠から尾瀬ケ原までは標高差 200m の下り道である。復路はこの坂道を登り返さなければならないので、最後まで力を残しておこう。雨が降った後は木道が滑りやすいので特に注意が必要である。坂道を下りきったところが山ノ鼻と呼ばれる場所である。ここから先が尾瀬ケ原の核心部分となる。

今回紹介する風呂は、尾瀬ヶ原にある東電小屋の風呂である。東京電力は尾瀬に合計 5 軒の小屋を所有しており、東電小屋は尾瀬ケ原の北の外れに位置し、唯一新潟県に所在する。取材班は山ノ鼻から牛首、竜宮、見晴を経由し、尾瀬ヶ原を 1 周する形で東電小屋を目指した。1 日で群馬県、福島県、新潟県と 3 つの県を歩くことになる。天気はあいにくの小雨。残念ながら至仏山やもう一つの日本百名山であり、尾瀬の最高峰である燧ヶ岳（ひうちがだけ）の眺望は望めない。しかし、尾瀬ヶ原の自然を堪能しながら木道をひたすら歩く。

この時期は水芭蕉もニッコウキスゲの花も時期が終わっているため、人影はまばらである。木道のところどころに設けられているベンチに腰を下ろして休憩・談笑する人や、小屋でゆっくりとコーヒーや名物の花豆ソフトクリームを楽しむ人が多い。花がないため、花の写真撮影の為に木道を占拠するマナーの悪い人はいない。

尾瀬ケ原にいると、時折ボッカ（歩荷）と呼ばれる人に出会う。彼らは山小屋に食料を届ける運送業者である。1 人当たり 80kg～120kg の荷物を担いで、黙々と歩く。やせ形で筋肉質の人が多い。日当は歩く距離や荷物の量にもよるが 1 万円～2 万円だそうだ。特徴的なのは、重心を異常に高くしていることで

ある。この方が楽だからなのだろう。山小屋では資材の運搬にヘリコプターも利用しているが、それが全てではないようだ。山小屋の運営はボッカによって支えられている。彼らの日々の活躍に感謝である。このため、彼らを見たら、さっと道を空けるのが礼儀であろう。彼らの呼吸や歩くペースを乱してはいけない。

程よい疲れを感じた頃、取材班は東電小屋に到着した。東電小屋の定員は 90 人。この日は 25 人ほどが宿泊をしていた。まずは入浴だ。東電小屋の風呂は男女別になっており、男湯は洗い場 4 か所と浴槽があるだけのシンプルな構成である。尾瀬では自然を守るため、石鹸やシャンプーの使用は禁止。それでは風呂の意味がないと思われるかもしれないが、通常山小屋に風呂があることはない。風呂に入れるだけありがたいのである。

洗い場には混合栓があるが、湯温は異常に高い。注意深く水と混合させて温度調整する。浴槽は定員 3 人ほど。ステンレス製の深風呂である。入浴者が少ない時間帯を狙って、ゆったりと浸かりたい。体の表面にある汗や皮脂をしっかり落として、明日に備えるのである。

ちなみに、浴槽に張られた豊富な水は、川の水を浄化しているという。井戸水ではないらしい。また、排水は合併浄化槽で処理され、川に放流されている。

夕食はハンバーグを中心とした定食。これに焼いた川魚（尾瀬で獲られたものではない）、枝豆、ビール、水芭蕉という銘柄の地酒を加える。旅の疲れを癒すには十分である。夕食後は支配人による尾瀬の講義。ユーモアを交えながら、尾瀬について楽しく学ばせてくれる。消灯は 21：00。早すぎる気がするが、翌朝早朝から登山をする人もいる。山では早寝早起きが基本だ。運が良ければ夜はホタルを見ることもできるという。

翌朝出発前に雨がザーと降ったが、出発時には晴れ間が見えた。尾瀬ケ原の景色を名残り惜しみながら歩くと、蛇、蛙、虹が迎えてくれた。尾瀬ヶ原ではなぜかハエやアブ、蚊などの害虫はほとんどいない。気温が低すぎるため、生息できないのであろうか。このため、蛙にとってはかなり酷な環境であると思われる。しかし、蛙は確かに生息している。そして、それを餌にする蛇もまた生息している。虹は低い位置に出てくるため、いかにも手が届きそうだ。

その尾瀬ケ原の気温であるが、下界よりも 10℃ほど低い。夏は極めて快適な気温である。このため、尾瀬ヶ原では汗をほとんとかくことなく、歩くことができる。しかし、最後は鳩待峠への登り返しで一汗かくことになった。

ちなみに、東京電力が所有する他の宿は、鳩待峠にある鳩待山荘、山ノ鼻にある至仏山荘、赤田代にある元湯山荘、尾瀬沼にある尾瀬沼山荘がある。いずれの宿でも入浴が可能であり、元湯山荘では唯一温泉を味わえる。

尾瀬の自然は東京電力、環境省、群馬県、福島県などの努力によって維持されている。東京電力は当初この尾瀬ケ原を全面的に水没させる大規模な水力発電の建設計画を持っていた。しかし、反対運動にあって断念。その後は、尾瀬の自然を維持し続け、多くの人を魅了している。この尾瀬の自然を守るために、訪れる者にはたくさんのルールが課せられている。それらは、①ごみは持ち帰る、②木道以外の場所には立ち入らない、③動植物の採取は禁止、④動植物を持ちこまない（入口に設けられているマットにて、靴底に付着した種子を除去）、⑤用便は公衆便所以外ではしない、などである。

この尾瀬の自然がこれからも維持されることを願いつつ、山小屋で入浴までできる贅沢な旅ができたことに感謝をし、2 日間の取材を終えた。

DATA

名称	尾瀬ケ原　東電小屋
所在地	新潟県魚沼市尾瀬ケ原
電話	0278-58-7311（東京パワーテクノロジー・尾瀬林業事務所）
営業時間	16：00～19：00（要確認）
定休日	無休（冬期は閉鎖）
入浴料	宿泊者は無料（日帰り入浴不可）
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2017 年 8 月 16 日（水）
取材	銭湯愛好会東京支部